

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)  
 分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 大島 寧 東京大学整形外科・脊椎外科 講師

研究要旨 頸椎変性疾患患者(頸椎 OPLL, 頸椎症性脊髄症)における頸椎アライメントについて検討した。T1 slope は-0C7 あるいは C2-7 Cobb 角と強く相関していたのに対し、C7-SVA と C5-7 Cobb 角が強く相関していた。Sigmoid 型のアライメントなどの機序解明につながると考えられる。

A . 研究目的

頸髄症患者における矢状面バランスと頸椎アライメントの関係を明らかにすること。

B . 研究方法

2015年に当院で頸髄症に対して全脊椎レントゲンを撮影した48名を対象とした。レントゲンの各種パラメーターを計測し、矢状面バランスと頸椎アライメントの関連を調べた。

(倫理面での配慮)

当院研究室内でデータ解析を行った。

C . 研究結果

T1 slope は-0C7 あるいは C2-7 Cobb 角と強く相関していたのに対し、C7-SVA は C5-7 Cobb 角が強く相関し、C2-4 角とは相関していなかった。年齢を考慮して多変量を行ったところ、C5-7 角に影響をしていたのは C7-SVA だけであった。

D . 考察、

T1 slope は頸椎全体のアライメントに影響を与えていたが、C7-SVA は下位頸椎のアライメントに影響していた。sigmoid 型のアライメントの原因と考えられた。本研究の結果は、全脊椎における矢状面バランスが頸椎アライメントに与える影響について解明する一助となりうる。

E . 結論

C7-SVAはC5-7のアライメントに影響する。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G . 研究発表

1.論文発表

C7 sagittal vertical axis is the determinant of the C5-C7 angle in cervical sagittal alignment. Matsubayashi Y, Chikuda H, Oshima Y, Taniguchi Y, Fujimoto Y, Shimizu T, Tanaka S. Spine J, 2017

2.学会発表 なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

( 予定を含む )

## 1. 特許取得

なし

## 2. 実用新案登録

なし

## 3. その他

なし